【口は禍の本　深い川は静かに流れる】

昔の歌に、「底ひなき　淵やは騒ぐ　山川の　浅き瀬にこそ　あだ波は立て」という歌があります。「底の知れないような深い河の淵は、決して波の立ち騒ぐということがない。静かにゆったりと流れている。山川の浅い瀬の方が、チョロチョロと音を立て、波を上げて流れている。人もそれと同じように、学問の深い人ほどそれを口に出さず、言葉を慎しんで知ったかぶりの高言など決してしない。学問の浅い人ほど、生かじりの知識を得意になってしゃべり、知ったかぶりをするものである」という意味の歌です。

水の入った瓶でもそうですね。いっぱい入っている時には、いくら振っても音を立てませんが、水が少しの時には、ジャプジャプと音を立てるものです。

だから、こんなことを子供に実際にやらせてみせ、この道理を説明してやりますと、子供は喜んでこれを聞き、またわかってくれるものです。私は、こういう教育法を皆様にお奨めします。

先日、うちの幼稚園（東京・青桐幼稚園）でも、この「深い川は静かに流れる」を実際に指導しました。すると、保育時間中おしゃべりの多い子に、その隣りの窓の子が、「深い川は静かに流れる、だよね」と言って注意していた、ということを担任の先生から聞きました。

このように、幼児期のうちに、人間として大事なことを、耳から聞かせると同時に、これを文字として目にも訴え、その上、実験や体験を通して理解させることに努めるなら、きっと立派な心の人間に育つと思います。

今、自分勝手な子どもが多いと言って歎きますが、子供の悪いのは、親たちが教育を怠っているためで、親の責任であって、子供の責任ではありません。このような指導を大切にして頂きたいと思います。

「口は禍の本」という諺も、言葉を謹しむことを教えたものですが、この“謹”という字について考えてみたいと思います。この字は、言と堇とで作られていますが、“堇”という字は、“細かい”“小さい”という意味の字で、音はキンです。

僅は、人が少ないという意味で、“わずか”という意味に使われています。

謹は、言葉が少ないという意味で、“言葉をつつしむ”意味に使われています（ついでに言いますと、慎は心をつつしむことです）。

饉は、食べ物の少ないという意味で、“飢饉”というように使われています。

これらの字は皆、音はキンです。それは堇（キン）という字がこの字の発音を表わすからです。さて、“すみれ”という“小さい”かわいい花がありますね。“堇”という字ですが、なぜこんな字で書き表わすようになったかおわかりでしょうね。